



古伊万里植物図鑑展

会期 二〇一八年七月四日（水）～九月二十二日（土）

会期中の
イベント

展覧会概要

夏休み！特別企画

キッズ学芸員 ～うつわを守る ふろしきの包み方～

- 7月28日（土）・29日（日）
- 28日（土）14：00～15：00／29日（日）11：00～12：00
- 学芸員の大切な仕事のひとつ、木箱と風呂敷を使ってやきものの仕舞い方を体験していただきます。
- ご参加の皆様に
戸栗美術館特製風呂敷をプレゼント。
- 参加費 1人500円
（各回定員3名。当日受付にてお申し込みください。保護者の方がご同伴ください）



やきものの展示解説入門編

- 初心者向け、やきものの基本が分かる解説です。
- 8月3日（金）～5日（日）・8月10日（金）～12日（日）
- 各日14：00～15：00
- ご参加の方に特製パンフレットプレゼント。
- 予約不要
（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）



伊万里焼の作り方から
鑑賞のポイントまで分かる1冊です。

7月20日（金）から8月31日（金）の間、小中学生は入館料無料。

当館学芸員による展示解説

- 第2・第4水曜 14：00～15：00
（7/11 7/25 8/8 8/22 9/12）
- 第2・第4土曜 11：00～12：00
（7/14 7/28 8/11 8/25 9/8 9/22）
- 予約不要（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）

フリートークデー

- 展示室でお話ししながら鑑賞いただける日です。
- 毎月第4月曜日（7/23 8/27）
- 10：00～17：00（入館受付は16：30まで）
- 展覧会のポイントをお話するミニパネルレクチャーも開催。
- 14：00～14：30
- 予約不要（入館券をお求めの上ご自由にご参加ください）

とぐりの学芸員講座

- 当館学芸員による深くやきものを学ぶ講座です。
- 2018年9月3日（月）14：00～
- 小西麻美（学芸員）
- 「古伊万里の文様～やきものにこめられた吉祥意～」
- 90分程度
- 参加費1000円
（入館料を別途お求め下さい）
- 先着35名様
- お電話にてお申し込みください
（03-3465-0070）

古伊万里植物図鑑展

会期：2018年7月4日（水）～9月22日（土）

会場：戸栗美術館

所在地：東京都渋谷区松濤 1-11-3

開館時間：10：00～17：00（入館受付は16：30まで）

※毎週金曜日は10：00～20：00（入館受付は19：30まで）

休館日：月曜日

※7月16日（月・祝）、9月17日（月・祝）は開館、
7月17日（火）、9月18日（火）は休館。

※毎月第4月曜日はフリートークデーとして開館。

入館料：一般1,000円/高大生700円/小中学生400円（団体20名様以上で200円割引）

※7月20日（金）から8月31日（金）の間、小中学生は入館料無料。

※9月17日（月・祝/敬老の日）は、65歳以上の方は入館料無料。

受付にて年齢のわかるものをご提示ください。

交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分、京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分

※当館には駐車場・駐輪場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。



美術館概要

戸栗美術館は、創設者 戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、旧鍋島家屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里、鍋島などの肥前磁器および、中国・朝鮮などの東洋陶磁が主体であり、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館
広報担当宛
〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3
TEL：03-3465-0070
FAX：03-3467-9813
E-mail：kouhou@toguri-museum.or.jp
URL：http://www.toguri-museum.or.jp/

植物モチーフに

注目した展覧会

日本には、昔から四季折々の植物を楽しむ風習があります。特に工芸品には、それらをあらわしたものが少なくありません。伊万里焼も例にもれず、形や文様が植物をモチーフとしたものが多くみられます。子孫繁栄（瓢箪）や歳寒三友（松竹梅）、不老長寿（菊）など、中国から伝わった「吉祥の意」を内包しているものもありますが、中には中国由来の意味だけではなく、日本的なおめでたい意味を持つものもあらわされています。

伊万里焼の生産がはじまった江戸時代は、次第に園芸が盛んになり、植物栽培の手引書が多数出版された時代でもあります。菊番付などにみられるように、植物に対する賞玩文化が広がりをもたせ、伊万里焼のモチーフにも身近な植物が採用されていきます。江戸末期には日本初の彩色植物図鑑が刊行され、以降の植物図鑑の礎を築きました。

今展では約80点の展覧作品にあらわされた植物を江戸末期に刊行された『本草図譜』を参考に、図鑑形式にてご紹介いたします。これまで「動物」や「唐草」、「吉祥文様」などに注目した展覧会は開催してまいりましたが、**植物モチーフ全般を一挙に取り上げるのは初めてのこと**。古伊万里植物図鑑と一緒に紐解いてみましょう。

みどころ その二

江戸の人々に寄り添い、四季を彩る植物

日本における園芸は、平安時代に貴族たちの間で、すでにはじまっていたといえます。江戸時代前期においても身分の高い人々の趣味でした。しかし、17世紀末頃より財力を付けた町人層に、19世紀には庶民にまで広がっていきます。植物栽培の手引書が多数出版されたのも、植物を賞玩する文化が広がった江戸時代。同時に、植物を薬としてみる本草学も盛んに行われました。

伊万里焼のモチーフには、じつに様々な植物が採用されていますが、そこには江戸時代に園芸種として人気があったものから、古来親しまれてきたもので、四季折々の様々な植物がみられます。第2章では当時の人々にとって身近な植物があらわされているものを四季に沿ってご紹介いたします。

藤

―はる―



藤は平安時代より鑑賞されてきた植物。江戸時代には陶磁器の文様としてあらわしたものや、なかには器形を藤の花房形にかたどった趣向を凝らしたのも作られました。



③色絵 藤花文 瓶

伊万里
江戸時代(17世紀後半)
高 18.7 cm

細身の茶筌形の瓶。頸部に剣先文、肩部に毘沙門亀甲文と花文を交互に配し、胴部に主文様として垂れ下がる藤花文を描く。藤の花弁の細やかな筆致や、蔓の滑らかな曲線の表現が見事。

染付 花唐草文 藤花形皿

伊万里 江戸時代(17世紀後半)
口径 29.7×15.2 cm

④染付 茗荷形皿

伊万里
江戸時代(17世紀後半)
口径 10.0×6.8 cm

茗荷(みょうが)を2つ重ねた形とした薄手の小皿。染付の濃淡を用いて柔らかな膨らみを巧みにあらわしており、細部に小さな花の陽刻を加えるなど丁寧な作行き。香味野菜として親しまれた茗荷は、神仏の加護を意味する“冥加(みょうが)”に通じることから縁起物とされる。



茗荷

―なつ―

菊

―あき―



⑤色絵 龍文 菊花形鉢

伊万里
江戸時代(17世紀末～18世紀初)
口径 26.5 cm

もとは中国の重陽の節句にて菊酒を飲むことから、不老長寿の霊薬として日本にもたらされた菊。江戸時代には菊見や菊番付なども行われ、愛好ブームが起こる。本作は型に押しあてて18弁の菊花形とした鉢。こういった菊花形の器形は類品が散見され、その人気の高さがうかがえる。

椿

―ふゆ―



色絵 花鳥文 面取壺

伊万里 (柿右衛門様式)
江戸時代(17世紀後半)
高 20.3 cm

円筒形に成形したのち、14面に面取りした壺。頸部には赤の剣先文がめぐり、肩部は緑の唐草文で埋めた中に赤の花文を配す。胴部は椿と牡丹の間を優雅に飛ぶ鳳凰を描く。華やかさがあがりながら上品な仕上りの優品。

絵付け、かたち・・・

伊万里焼にあらわされた四季の植物をお楽しみください。

次回展予告

『鍋島と古九谷一意匠の系譜一展』

2018年10月5日（金）～12月22日（土）



瓢箪

①染付 花唐草文 瓢形瓶

伊万里
江戸時代
(17世紀末～18世紀前半)
高 31.8 cm

花唐草で総体を埋めた瓢形の瓶。瓢は子孫繁栄の吉祥の植物。花唐草は伊万里焼の染付に多用された意匠であり、本作は特に大振りで華やかな表現。端正に成形された瓢形と濃厚な染付の発色が相俟って品格ある落ち着いた感を呈している。



松竹梅

②色絵 松竹梅文 瓶

伊万里 (古九谷様式)
江戸時代(17世紀中期)
高 17.9 cm

鮮やかな色絵で胴部に松竹梅文を描いた瓶。松竹梅は冬の寒さ、逆境に耐える高潔な植物として、中国では古来好まれた。本作は赤や緑、黒や紫を使い濃厚な色調であらわす。



みどころ その一

植物に込められた人々の願い

子孫繁栄、立身出世、富貴・・・中国では、古くから物事や動植物などに特定の意味や願いを込め、生活の中であらわしてきました。こういった、「吉祥」の意味をもつものの中には、日本においてもその意味を引き継いで、おめでたいモチーフとして受け入れられたものもあります。やがて、中国由来の意味のみならず、日本的なおめでたい意味が付加されると、ひとくに中国の吉祥如意として判断できないものも現れ、ひとつのモチーフに両国の意味を内包するものがみられるようになりました。

第1章では、伊万里焼にあらわされている植物の中で中国から「吉祥」の意味が渡来してきたものを中心にご紹介いたします。植物に込められた人々の願いとはどのようなものだったのでしょうか。